

7. DVD製造装置(社内向け設備)でのリスクアセスメント <設計製造時>

(電気機械器具製造業)

【事例の位置づけ】

この事例は、自社グループ向け設備機械を設計、製造している事業場における製品安全を目的としたリスクアセスメント事例です。設備安全設計の適合性評価は構想、設計、出荷、検収時（据付工事のある場合）の各段階で実施され、リスクアセスメントはその下位に属しています。現在、試行されている段階ですがリスクアセスメントの危険源の同定の際に使用されるツールとして事故事例及び自社機械安全基準を加味した「安全FTA」が準備されること、及び適切なリスク低減がなされるための判定を具体的な定量値を自社水準として「機械安全リスクアセスメント判定基準」を作成されていることであり、今後の発展が望める事例です。

1 事業場の概要

1.1 業種：

電子応用装置製造業

1.2 労働者数：

約1,100名

1.3 主な製造物：

社内向け 生産設備

金型、ディスプレイパネル検査装置、照明ランプ製造設備等

2 設計製造時のリスクアセスメント取り組み状況（全体概要）

2.1 企業のリスクアセスメントへの取り組み方針、背景等：

（1）リスクアセスメントの取り組み方針、設計製造管理体制上の位置づけなど

2001年に機械のユーザーの立場で制定された「グループ設備安全基準作成指針」から機械メーカーとして考慮すべき事項を抜粋し、これを元に「機械安全基準」制定した。この基準に、機械の設計に際してはリスクアセスメントを実施する旨規定されている。

また、2001年に厚生労働省が定めた「機械の包括的な安全基準に関する指針」を受けて2003年から出荷する全設備についてリスクアセスメントを実施している。

（2）リスクアセスメントの実行組織と人員体制の概要

同社ではISO9001認証を取得しており、社内規定で「設備安全設計運用基準」を定め、ここに具体的なリスクアセスメントの実施内容が規定されている。

（3）リスクアセスメントに基づく安全方策の実施体制の概要

リスクアセスメントの実行組織は設備設計部門、製造部門および出荷認定部門である。設備設計部門は約150名の技術者全員がリスクアセスメントを実施できる体制である。（2003年から機械安全委員をリーダーとして、各グループのメンバーを教育。また、機械安全委員会および品質保証グループメンバーが勉強会を都度実施。